



関西医科大学 広報

Kansai Medical University Public Relations



建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

新たな年を迎え、 輝きを増す関西医科大学



日の出の光を浴びて、光り輝く本学正面玄関

CONTENTS

法人： 理事長・学長年頭所感、賀詞交換会	P.2	卒後臨床研修センター： 初期臨床研修医マッチング状況について	P.29
大学： 入学試験のお知らせ	P.18	同窓会： 同窓会アートガイド	P.30
病院： 第11回医療安全大会開催	P.21	メディア情報・お知らせ：	P.32
看専： 第29回キャンドルサービス実施	P.28		

法人

理念を共有して「五つ星」を目指せ 新年賀詞交換会

1月5日(月)午後4時から枚方学舎加多乃講堂において、新年賀詞交換会に先立ち「理事長・学長新年挨拶(年頭所感)」が行われました。教職員一同、枚方地区及び附属看護専門学校は枚方学舎加多乃講堂、附属滝井病院及び天満橋総合クリニックは滝井病院6階臨床講堂、香里病院は8階会議室にそれぞれ集合、理事長・学長新年挨拶の様子は、両病院に同時中継されました。

その中で山下敏夫理事長・学長は、新年の抱負を教育・研究・診療・法人及び将来像の五つのテーマに分けて述べた後「医学・医療界は日々着実に発展しています。停滞は退化に繋がります。常に先を見て、変革、前進しなければなりません」と締めくくり、3会場に集まった教職員は今年一年の目標達成に向けて士気を高めました。

その後引き続いて、各部署で賀詞交換会が開催されました。



年頭所感を述べる山下理事長・学長



年頭の挨拶をする澤田病院長

枚方地区では、法人(大学)と附属枚方病院、及び附属看護専門学校の合同賀詞交換会が枚方学舎3階学生食堂に会場を移して行われました。冒頭、澤田敏夫枚方病院病院長が「病院が持てる力を十二分に発揮するには、病院運営機能のボトルネックを探し出し、応急的・根治的な手当てを打つことだ」と挨拶。続いて伊藤誠二副学長から「人は困難があったときにそれを乗り越えて成長する。この1年目標に向かって頑張ろう」との言葉と共に乾杯の発声がありました。



年頭挨拶に立った岩坂病院長

滝井地区では、附属滝井病院と天満橋総合クリニックの合同賀詞交換会が滝井病院6階臨床講堂で行われました。冒頭、岩坂壽二滝井病院病院長が「来年の滝井病院新本館竣工・オープンは、私たちにとって新たな夜明け。気持ち良く夜明けを迎えられるようみんなで頑張りましょう」と挨拶。浦上昌也天満橋総合クリニック院長からは「今年は、昨年以上に附属病院との連携強化に向けて手を打っていきます」との決意表明があり、全員で乾杯しました。



年頭挨拶を述べる高山病院長

香里病院の賀詞交換会は、香里病院8階会議室で行われました。冒頭、高山康夫香里病院病院長から「地域の方の、香里病院があって良かったという声を最近よく聞くようになった。地域の中で当院の位置付けが確立しつつある中、これからも自分たちの医療を続けていき、地域の方々が受診しやすい病院にしていこう」との念頭挨拶がありました。続いて廣原淳子香里病院副病院長の音頭に合わせて昆布茶で乾杯し、新たな一年を踏み出しました。

法 人

就 任 の 挨 拶

血液腫瘍内科診療教授に就任して

内科学第一講座血液腫瘍内科担当診療教授 石井 一慶



平成26年10月から内科学第一講座血液腫瘍内科診療教授(附属滝井病院血液腫瘍内科部長)を拝命しました石井一慶と申します。これまで附属滝井病院での血液内科の入院診療も閉鎖となっていました。1年6か月ぶりに再開いたします。この場をお借りして就任のご挨拶を申し上げます。

関西医大には10年間在籍した市立岸和田市民病院から平成24年4月に戻って参りました。附属枚方病院で講師、准教授として血液腫瘍内科の診療を支えました。枚方病院血液腫瘍内科は近隣地域から紹介患者が絶えることなく、常に飽和状態です。その背景として、関西医大の位置する北河内地域における血液内科診療の貧弱さが挙げられます。大阪市は人口250万人を擁する大都市で、入院可能な血液内科病院は14施設あります。一方、京都府八幡市を含めた北河内地域は人口197万人の大きな医療圏でありながら、入院可能な血液内科病院は枚方病院を含め、わずか5施設しかありません。医療行政上からも、滝井病院での血液内科診療再開は早急に対処すべき重要課題でした。今回、その重責を担って滝井病院における血液内科診療を再開できることを誠に光栄に存じます。

滝井病院は枚方病院開院前から長きにわたり、地域

医療を支えてきた基幹病院です。大学病院としての高度先進医療のみならず、垣根の低い市中病院としての役割も担ってきました。地域に愛されているそのカラーを尊重したいと思います。また、平成28年5月には滝井病院はリニューアルされ、更なる発展が期待されています。それを支えるべく、院内での血液疾患のコンサルテーションも含め尽力する所存です。

21世紀の医療として、癌の撲滅は政府を挙げて最重要課題の一つです。iPS細胞がこの世に誕生したことで、抗癌剤に加え、再生医療という強力なツールを我々は手に入れつつあります。滝井病院血液腫瘍内科が、全人類的な目的に向かって貢献できるよう、そして優秀な人材を輩出できるよう、後進の指導も誠心誠意取り組んでいきたいと思っています。

一 略 歴

平成元年3月	高知医科大学医学部医学科	卒業
平成5年10月	Western Pacific Regional Office, WHO, Intern, Philippines	
平成7年4月	Rockefeller University, Research Fellow, USA	
平成10年5月	天理よろづ相談所病院血液内科	医員
平成13年3月	関西医科大学附属滝井病院内科学第一講座	助手
平成14年1月	市立岸和田市民病院血液内科	医長
平成22年4月	市立岸和田市民病院血液内科	部長
平成24年4月	関西医科大学内科学第一講座	講師
平成25年8月	関西医科大学内科学第一講座	准教授
平成26年10月	関西医科大学内科学第一講座 附属滝井病院血液腫瘍内科	診療教授

大学基準協会認証評価受審に係る実地調査について

学校教育法に定める7年毎の認証評価を、平成26年度に公益財団法人大学基準協会にて受審しています。このたび書面評価に続く実地調査が、昨年10月6日(月)・7日(火)の2日間に亘り枚方学舎で実施されました。

調査は、主査及び委員の4名によって「大学関係者との意見交換」「教職員・学生とのヒアリング」「施設見学・授業参観」が行われ、2日目の午後に行われた山下敏夫理事長・学長はじめ要職者との意見交換では、大学評価基準の10項目について講評がありました。

今後同協会において「大学評価結果(委員会)案」が策定され、最終的には3月に「大学評価結果」が通知される予定です。

未来に向けて、決意新た 平成27年度新入職員内定式挙行



澤田常務理事とともに、集合写真におさまる内定者

10月1日(水)午前11時から、枚方学舎4階中会議室において澤田敏常務理事列席のもと「平成27年度新入職員内定式」が挙行されました。この日は平成27年度入職予定の事務職内定者13名が参加し、内定証書が一人ひとりに手渡されました。その後、澤田常務理事から「半年後の卒業・入職までの間に教養を身につけ、自分を磨いて欲しい。そして入職後は一人前の社会人を目指し、自分なりのマイルストーンを設定しながら頑張ってください」との挨拶があり、内定者も真剣な面持ちで耳を傾けていました。また、入職にあたっての決意を表明するプログラムでは「関西医大を日本一の私立医科大学にするために貢献したい」「患者や学生の方々だけでなく、先輩や同僚もお客様だと考えて仕事がしたい」「周囲の人々に頼られる人間になりたい」など、内定者一人ひとりが未来に向けての想いを語りました。

「施設設備整備拡充資金」の募集

関西医科大学では平成26年度の寄付金として「施設設備整備拡充資金」を募集しております。これは医学・医療技術の進歩に対応して教育・研究・診療の施設設備の整備・拡充を進めるためのものです。

皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

募集要項

- | | |
|------------|--|
| 1. 募集対象 | 本学学生の保護者、同窓会員、
本学関連の個人および法人その他 |
| 2. 募集金額 | 1口 100万円 1口未満でも申し受けます。 |
| 3. お問い合わせ先 | 関西医科大学法人事務局募金室
〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1
TEL：072-804-2146 (直通)
FAX：072-804-2344 |

平成26年11月1日から平成26年12月31日までにご寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

HPでの公開は控えさせていただきます。

寄付者および学校債引受者 ご芳名銘板が完成しました



1階南エレベーター横に設置された銘板



これまでご寄付いただいた方、学校債をお引き受けいただいた方のご芳名をガラスに印刷しております

枚方キャンパス統合移転整備事業募金にお寄せいただきました貴重なご芳志を末永く顕彰するために、寄付者および学校債引受者のご芳名を掲額したガラス製の銘板を作成し、このたび設置が完了いたしました。

設置場所は、枚方学舎1階南エレベーター横です。学舎へお立ち寄りの際は是非ご覧ください。

附属滝井病院リニューアル事業計画 進捗報告

2014年6月時点



2014年8月時点



2014年10月時点



既存躯体がほぼ取り除かれ、地盤改良工事が本格化しました

附属滝井病院リニューアル事業計画も実際の工事着手から約1年が過ぎ、旧専門部学舎構築物のほとんどが取り除かれました。現在は残る地下部分の既存躯体撤去を行い、並行して地盤改良工事を進めています。また、前回Vol.27において既報の通り新本館の基礎杭打ち込みと掘削工事は引き続き進行中。これからも、患者や地元住民の方々にご迷惑をおかけしないよう細心の注意を払って工事を進めていきます。



新本館の基礎となる鉄筋を打設しています



既存躯体を撤去した際に出た、廃材を搬出しています



二次掘削に向けて、床付けの横矢板を渡しました

主な出来事

今号掲載期間の主な出来事をご紹介します。(記事掲載は太字)

法人	10月 1日 平成27年度新入職員内定式 10月 6日・7日 大学基準協会認証評価受審に係る実地調査	
大学	10月19日 慈仁会全国懇談会 10月20日 第40回実験動物慰霊祭 10月23日 解剖体慰霊碑供養 10月24日 国際交流セミナー 10月27日 大学院講義・再生医療講演会 11月 1日・2日 霜月祭2014 11月12日 武田科学振興財団特定研究助成贈呈式 11月29日 第10回枚方産学公連携フォーラム 12月13日 ひらかた市民大学 12月17日 国際交流フォーラム	 第8回災害訓練(附属枚方病院)
3病院	12月15日 医療安全大会	
附属 枚方病院	10月18日 第8回災害訓練 10月27日 EPA研修 10月30日 日本ボランティア協会表彰 11月 6日 教育講演会 11月15日 腎移植患者会 11月27日 脳卒中救命フォーラム 11月29日・病院情報システム移行リハーサル 12月 6日 子ども病棟クリスマス会 12月20日 市民公開講座 12月20日 クリスマスコンサート 1月 4日 病院情報システムの移行	 霜月祭2014 上野教授日本病理学会学術奨励賞受賞
附属 滝井病院	10月 4日・病院情報システム移行リハーサル 10月18日 第9回災害訓練 10月19日 日曜マンモグラフィー 11月 1日 世界糖尿病デーイベント 11月 3日 病院情報システムの移行 11月29日 第17回市民公開講座 12月 9日 クリスマスコンサート	
香里病院	10月 4日 市民公開講座 10月19日 日曜マンモグラフィー 10月28日 消防訓練 12月 6日 クリスマスコンサート	子ども病棟クリスマス会
附属看護 専門学校	10月 4日 ホームカミングデイ 10月16日 大阪安全なまちづくりキャンペーン 12月18日 キャンドルサービス	
卒後 臨床研修 センター	10月10日・11日 臨床研修指導医養成講習会 10月29日 看護師復職支援・看護技術トレーニング 11月15日 初期臨床研修合同説明会 11月19日 近畿厚生局による臨床研修病院実地調査 12月 6日 看護教育担当者研修	キャンドルサービス

大 学

上野教授が武田科学振興財団の贈呈式に出席 日本病理学会の学術研究賞も受賞



武田科学振興財団 特定研究助成贈呈証と上野教授(左)、
日本病理学会総会において学術研究賞を受賞(右)

11月12日(水)午後1時30分から、シェラトン都ホテル東京地下2階「醍醐」において公益財団法人武田科学振興財団の2014年度研究助成金・奨励金贈呈式が行われました。本誌Vol.26で既報の通り、本学の病理学第一講座上野博夫教授が“我が国の医学の発展に向け、組織が総力をあげて取り組む共同研究(武田科学振興財団HPより)”として特定研究助成に採択。当日は上野教授に対して認定証が手渡されました。

また上野教授は、11月20日(木)・21日(金)の2日間に亘って国立劇場おきなわ、浦添市産業振興センター・結の街で行われた第60回日本病理学会秋期特別総会において、“病理学の基礎的研究あるいは診断業務の中で特に優れた学術的貢献を行った本学会若手会員に対して与えられる(日本病理学会HPより)”学術研究賞を受賞しました。

大学情報センター渡邊准教授が科研費審査委員の表彰を受ける



表彰状と副賞を手に、山下理事長・学長と記念写真に収まる渡邊准教授

11月28日(金)午後2時45分から枚方学舎4階カンファレンスルームCにおいて、独立行政法人日本学術振興会が科学研究費助成事業(研究費)の審査で有意義な審査意見を提出した委員を表彰する「科研費審査委員の表彰」の、学内贈呈式が行われました。この表彰は平成20年度から始まったもので、2段階のピア・レビューで行われる科研費審査の公平性・公正性向上を目指し、“審査の質”を高めるために行われているものです。平成26年度は約5,300名の第一段審査委員の中から170名が選ばれ、本学からは大学情報センターの渡邊准教授が受賞。山下敏夫理事長・学長から、表彰状と副賞のメダルが手渡されました。

なお、平成26年度の受賞者については、日本学術振興会のホームページで氏名が公開されています。

法医学講座教務技師時安係長が医療教育等関係業務功労者表彰を受ける



表彰状および副賞の銀杯とともに、記念撮影に応じる時安教務技師

11月20日(木)午後2時から、ホテルフロラシオン青山(東京都港区)において平成26年度医療教育等関係業務功労者表彰式が開催され、法医学講座教務技師時安太久磨係長が文部科学大臣表彰を受けました。この表彰は、国公私立大学とその附属医療機関における医学・歯学の教育や研究、診療に関係する補助的業務に長年従事し、顕著な功績のあった人物を対象とした表彰です。これらの職務に従事する人々のモチベーションを高め、医学・歯学教育の充実と向上を目的に昭和49年から毎年行われており、40年を超える歴史を重ねています。

時安係長は昭和48年の入職以来法医学講座の教務技師として職務に励み、学生の教育に大きく貢献してきたことが理由。関西の私立大学では時安係長だけが受賞しました。

大 学

慈仁会全国懇談会を開催

10月19日(日)午前11時から、枚方学舎において1~6学年の保護者383名が参加し、平成26年度慈仁会全国懇談会が開催されました。加多乃講堂で行われた総会は各学年の講義室へ同時中継され、友田幸一副学長・教務部長、楠本健司学生部長及び慈仁会三谷武生委員長が挨拶。その後はクラスアドバイザー教員とのクラス別懇談会、個別懇談会が行われました。

また、個別懇談会と並行して図書館、シミュレーションセンター、歴史資料室(以上枚方学舎3階)、オープンラウンジ(同1階)、カフェテリア(同4階)の見学会を開催。併せて本学の副章をデザインしたバッジなど大学関連グッズの販売も行われ、全国から訪れた保護者で賑わいました。

動物たちの貢献に感謝 第40回実験動物慰霊祭



慰霊の言葉を読み上げる上野施設長

10月20日(月)午後1時から、枚方学舎4階中会議室において山下敏夫理事長・学長はじめ実験動物飼育共同施設上野博夫施設長、動物実験委員会中村加枝委員長、附属生命医学研究所木梨達雄所長など役職員列席のもと、動物実験に関係の深い教職員が参列して第40回実験動物慰霊祭が無宗教形式で執り行われました。

参列者全員での黙祷の後上野施設長が挨拶に立ち、現代の医学研究と診療技術の進化になくってはならない存在となった実験動物たち、とりわけ遺伝子改変動物の貢献に、感謝と哀悼の意を表明。その後山下理事長・学長を筆頭に、しめやかな空気に包まれる中参列者が献花しました。

平成26年度解剖体慰霊碑供養を挙行 献体への感謝を捧げる



解剖体慰霊碑の前で経を読むご住職と、列席者一同

10月23日(木)午前11時から、臨済宗建仁寺派大本山建仁寺の塔頭・正伝永源院において山下敏夫理事長・学長はじめ澤田敏附属枚方病院長ら教職員及び白菊会の藤澤直子会長と堂迫千草副会長が列席し、平成26年度解剖体慰霊碑供養が営まれました。これは自らの遺志と無条件・無報酬の篤志をもって、医学の発展のために身体を提供された御霊を供養する儀式です。

この日は柔らかな秋の日差しが優しく降り注ぎ、読経が響き渡る中、山下理事長・学長以下列席者12名全員が焼香し、献体された方々への感謝と哀悼の意を込めてご冥福を祈りました。

大 学

バーモント大学視察 ならびに学長表敬訪問報告

副学長・教務部長・国際交流センター長 友田 幸一

初秋の9月28日(日)～10月2日(木)まで5日間の日程で、米国バーモント大学の視察と学長他への表敬訪問を行いました。2010年に両大学の協定調印を行って以来、これまで医学部6年生の海外臨床実習で双方向の交流を深めてきました。その経緯は、バーモント大学病理学の木田正俊教授と私との金沢医科大学時代からの友好関係から始まっています。

バーモント大学は1791年に創立され、ニューイングランドでは5番目に古い歴史のある大学。バーモント州都であるバーリントン市に位置しています。バーモントはラテン語で「緑豊かな山」という意味を持つとおり周辺には美しい緑が繁茂し、アディロンダック山地やグリーン山脈などに囲まれた大学といえるでしょう。キャンパスには築200年以上の建物が複数現存しており、オールド・ミル・ビルディングなどその多くが米国歴史遺産登録リストに掲載されています。こうした歴史情緒あふれる学舎や周辺のロケーションを高く評価する声も多く、元ニューヨーク・タイムズ編集者で大学評論が有名なEdward B Fiskeは、その著作『Fiske Guide to Colleges 2015』の中で「バーリントン市は素晴らしい学園都市で(中略)バーモント大学は全米から学生を惹きつけている」と評しました。そんなバーモント大学は8つの学部と90以上の専攻課程という多彩なカリキュラムを用意し、州立大学にしては比較的少ない約12,000名の学生数もあいまって、キャンパス内はリベラル・アーツ・カレッジのような雰囲気を持っています。平和活動家でノーベル平和賞受賞者ジョディ・ウィリアムズや、教育学者で哲学者のジョン・デューイ、ピューリッツァー賞も受賞した小説家E・アニー・ブルーなど、この大学から巣立った著名人も多く、勉学だけでなく人格的な成長にも適した大学といえるでしょう。

今回の訪問は、山下敏夫理事長・学長、教務委員会臨床実習小委員会委員長の野村昌作教授と副学長・教務部長・国際交流センター長の友田の3名。その目的は、2010年に両大学の学術交流協定を結んで3年が経



バーモント大学学長室にて。左からSullivan学長、野村教授、友田、山下理事長・学長、Morin医学部長、木田教授

過していることから協定内容の再確認・更新を行うことと、さらに両大学の現況報告、将来のミッションについての理解を求めることです。これまでに本学から派遣した学生は9人、また2013年にはバーモント大学からの2名の学生を受け入れています。最初にバーモント大学総長のThomas Sullivan氏を訪問し、両大学の歴史的背景や現状、将来展望などについて語り合いました。バーモント大学医学部長のFrederick Morin氏とは、3年前に本学を訪れ協定書を交わした時の話題や、学生の双方向の交流が実現できたこと、そして今後は教職員の教育・研究面での交流をも可能にするためプログラムの充実について熱心に討議しました。その後、木田先生の直属の上司である病理学主任教授のDebra Leonard氏や、副医学部長のWilliam Jeffries氏の他、医学教育関係者との会議が行われ、現在実施している学生交換プログラムの問題点や改善点を検討。今後の新しいミッションについて双方の意見を出し合いました。また、バーモント大学が進めている発展途上国への教育支援や医療活動に、関西医大もできる限り協力することを約束しました。さらに会談の合間には 附属病院(Fletcher Allen Health Care)も見学。2010年に新しく建て替えられ562床のベッドを有し、内装は明るく各部署が機能的に配置されていて、教職員の皆さんも愛想よく迎えてくれました。

最終日にはMorin医学部長主催の晩さん会が行われ、John Brumsted病院長夫妻も出席。シャンブラン湖畔のShelburne Farmsにて沈む夕日を眺めながらのカクテル、そして夕食と、懇親を深めることができました。この時期のバーモントは一年で最も美しい季節で、黄や赤に染まる山々の美しさは格別であり、日本のそれとは一味違うバーモントの秋を満喫することができました。今後、両大学の交流がさらに発展することを祈願しています。



バーモント大学本部の前で

大 学

カリフォルニア州政府から 医療機関の認定を受ける



カリフォルニア州政府から届いた認定証

2014年9月16日(火)付けで、米国カリフォルニア州のMedical Board of California(カリフォルニア州政府医療委員会)に本学医学部が登録されました。これはカリフォルニア州で臨床医療を行うために必要な登録で、今回の認定により本学卒業生は同州での研修医のマッチングに応募することが可能になります。

一般に米国で臨床医療を行うにはUSMLE(米国医師国家試験)合格後、州ごとの医師免許申請が必要です。また、このUSMLEは全国共通ですが、医師免許は州ごとに資格審査が異なります。特にニューヨーク・フロリダ・カリフォルニアの3州は、アメリカ国外の医学部を卒業した学生が免許を申請するためには、State Medical Board(州政府)によって卒業大学が承認されていなければなりません。この承認が本学学生の医師免許取得を保証するわけではありませんが、将来取得できる可能性を示しています。

なお、カリフォルニア州の州政府医療委員会は、承認しているすべての学校のリストをホームページで公開しています。

アメリカで医療を学ぶということ、学ぶ 国際交流セミナーを開催



アメリカでの臨床実習について講演する長尾准教授

10月24日(金)午後5時15分から、枚方学舎2階学生セミナー室2Cにおいてカリフォルニア大学サンフランシスコ校リハビリテーション科長尾正人准教授を招き、国際交流セミナーを開催しました。今年、同校での国外臨床実習を経験した学生や来年参加予定の学生、整形外科講座菅俊光准教授ら14名が出席したこの日のセミナーは、友田幸一国際交流センター長の司会で進行。冒頭友田センター長が挨拶を行った後、長尾准教授が「アメリカでの医学臨床実習の実際」をテーマに講演しました。参加者は一様に興味深い表情で聴き入り、質疑応答では学生から「海外留学のきっかけ」「英語上達の秘訣」、教員から「日本人留学生と外国人留学生の違い」など活発に質問。長尾准教授は自身の体験談を含め、身振り手振りを交えて回答されました。

最後は参加者全員で記念撮影を行い、セミナーは和やかな雰囲気の中で終了しました。

医学の輪が、世界をつなぐ 第3回国際交流フォーラム開催



記念写真に収まる教職員・留学生ら参加者一同

12月17日(水)午後6時から、附属枚方病院13階レストランのぞみにおいて国際交流センターが主催する第3回国際交流フォーラムが開催されました。立食パーティ形式で行われたこの日のイベントは、国際交流センター中川淳副センター長が総合司会を務め、友田幸一センター長の開会挨拶・乾杯の発声でスタート。和やかな雰囲気の中薬理学講座中邨智之教授司会のもとベトナムや中国からの留学生が日本での生活に関するプレゼンを行ったり、健康科学教室木村穰教授司会のもと海外へ留学した教職員が成果を発表したりと、活況を呈しました。

途中、優れた研究実績を収めた留学生に贈られる平成26年度関西医科大学留学研究賞の贈呈式も行われ、形成外科学講座PRISCILLA VALENTIN NOTODIHARJO研究員に表彰状と副賞が手渡されました。また、留学を経験した学生がその成果をプレゼンする場面では、司会の医学教育センター木下洋センター長がユーモアを混じえたコメントで場を盛り上げ、友田センター長の閉会の挨拶が行われるまで、終始笑顔の絶えないひと時となりました。

大 学

平成26年度教員評価優秀者表彰式を開催

12月9日(火)午後3時45分から枚方学舎4階中会議室において、平成25年度の「教員の活動状況調査票」に基づく平成26年度教員評価優秀者への表彰式が開催されました。これは、対象者全員から提出された活動状況調査票をもとに一定の基準を達成した教員を表彰(※)するもので、今年度は准教授5名、講師10名、助教15名を選出。伊藤誠二副学長の挨拶があった後、山下敏夫理事長・学長から表彰状と副賞が手渡されました。

※…各職位において通算3回表彰された教員は対象外

平成26年度教員評価優秀者一覧

■准教授

竹之内 徳博(微生物学講座)
谷内 昇一郎(小児科学講座)
岩瀬 正顕(脳神経外科学講座)
播磨 洋子(放射線科学講座)
正木 浩哉(臨床検査医学講座)

藤井 喜充(小児科学講座)
北出 浩章(外科学講座)
児島 新(整形外科科学講座)
狩谷 秀治(放射線科学講座)
保坂 直樹(臨床検査医学講座)

木全 貴久(小児科学講座)
武田 純一(脳神経外科学講座)
覚道 奈津子(形成外科学講座)
日原 正勝(形成外科学講座)
濱田 聡子(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座)

■講師

下條 正仁(医化学講座)
垪 貴司(病理学第二講座)
清水 俊樹(内科学第一講座)
宮坂 陽子(内科学第二講座)
加藤 正樹(精神神経科学講座)

■助教

上野 孝治(微生物学講座)
水野 泰行(心療内科学講座)
織田 裕行(精神神経科学講座)
齊藤 幸子(精神神経科学講座)
西田 圭一郎(精神神経科学講座)
三井 浩(精神神経科学講座)

菅野 渉平(放射線科学講座)
梅垣 岳志(麻酔科学講座)
早川 航一(救急医学講座)
川浦 孝之(数学教室)

※職位は調査対象期間(平成25年4月1日～平成26年3月31日)時点

常に脳へ刺激を与えよう！ ひらかた市民大学で認知症について講演



講演終盤、見本を見せながら参加者と一緒にダンスを踊る三宅講師(左奥、右側)

12月13日(土)午後2時から附属枚方病院13階講堂において「ひらかた市民大学」が開催され、市民約100名が参加しました。これは枚方市内6大学と市で組織する「学園都市ひらかた推進協議会」事業として、6大学の専門的な知識を市民へ提供するために始まった、前身の「コミュニティ・カレッジ」から数えて10回目となるイベント。この日は『「認知症の予防とライフスタイル」脳の健康チェック(ファイブ・コグ)とダンス「いっしょに踊ろう」の体験』と題して公衆衛生学講座三宅眞理講師が登壇しました。

三宅講師は脳の働きや記憶の仕組み、認知症患者数の推移などを紹介。認知症予防には“生活習慣病を予防するライフスタイルと脳の健康チェック”が大切と話し、加齢による認知能力低下のレベルを測るスクリーニング“ファイブ・コグ”を実施。その結果を踏まえフリーインストラクターの玉川純子氏が、注意機能や判断力などの認知機能を高め、快の心理的向上が得られるなどを目的としたプログラム“シナプソロジー”を実演しました。その後は三宅講師が、認知症の人のケアや支援について講演。オーストラリアの例を紹介しながら、認知症の人の尊厳を守り、住み慣れた地域で暮らせる町づくりと医療・介護・福祉サービスの連携が大切だと話しました。最後は参加者全員によるダンスで締めくくり、ひらかた市民大学は幕を閉じました。

産学公の連携が未来を開く 第10回枚方産学公連携フォーラムに参加



参加者を前に発表を行う森田講師

11月29日(土)午後1時30分から、枚方市立地域活性化支援センター7階大研修室において「第10回枚方産学公連携フォーラム」が開催され、内科学第二講座森田寛講師が発表を行いました。和歌山大学産学連携・研究支援センター八木栄一特任教授、株式会社レイ・クリエーション原田徹朗代表取締役の講演に続いて登壇した森田講師が、「産学連携により実現した画期的な臨床超音波画像シミュレーション」をテーマに講演。超音波エコーで人体と同じような映像が得られる心臓カテーテル手術用シミュレータを民間企業と共同開発した経緯やその成果について、実際の映像と画像を交えて解説しました。

同時に坂本設計技術開発研究所(株)から、本学との共同研究の成果である「骨モデル」及び「手の手術補助具」の展示が行われました。

大 学

医学部入学試験のお知らせ

一般入試(前期)

平成27年度一般入学試験(前期)第1次試験は、1月31日(土)午前9時から大阪・東京・名古屋・福岡の4会場で行われます。

■大阪会場 インテックス大阪6号館



住所：大阪市住之江区南港北1-5-102
 ・南港ポートタウン線「中ふ頭駅」から西ゲートまで徒歩約5分
 ※東ゲートは閉鎖されていますので、西ゲートから入場してください

■東京会場 TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター



住所：東京都新宿区市谷八幡町8番地TKP市ヶ谷ビル
 ・JR「市ヶ谷駅」から徒歩約2分
 ・東京メトロ南北線、有楽町線「市ヶ谷駅」7番出口から徒歩約1分、4番出口から徒歩約2分
 ・都営地下鉄新宿線「市ヶ谷駅」4番出口から徒歩約2分

■名古屋会場 TKPガーデンシティ名古屋新幹線口(旧TKP名古屋ビジネスセンター)



住所：愛知県名古屋市中村区椿町1-16 井門名古屋ビル
 ・JR、近鉄、名鉄「名古屋駅」、太閤通口から徒歩約1分
 ・地下鉄「名古屋駅」から徒歩約3分

■福岡会場 南近代ビル



住所：福岡県福岡市博多区博多駅南4-2-10
 ・JR「博多駅」筑紫口から徒歩約15分
 ・「博多駅バスターミナル」西鉄バス13番のりばから〈8〉〈17〉〈29〉〈40〉〈44〉〈45〉番系統乗車約5分「山王公園前」下車すぐ
 ・福岡市営地下鉄空港線「東比恵駅」から徒歩約10分

センター利用入試

平成27年度センター利用入学試験1次試験は、1月17日(土)・18日(日)に大学入試センター試験各試験場において行われます。

一般入学試験(前期)、センター利用入学試験第1次試験 合格者発表

日時：平成27年2月12日(木) 場所：本学校方学舎エントランスホール(掲示)

合格者の受験番号は、本学ホームページ(<http://www.kmu.ac.jp/>)でも発表します。

※第2次試験(第1次試験合格者のみ)は、本学校方学舎で実施します(詳細は合格者に通知します)。

大 学

一般入試(後期)

一般入学試験(後期)の出願期間が間もなく始まります。

また、第1次試験は3月7日(土)午前9時からインテックス大阪6号館にて行われます。

出願期間：平成27年2月19日(木)～2月26日(木)当日消印有効

試験会場：インテックス大阪6号館

※地図、アクセスは前ページ「一般入試(前期)大阪会場」をご参照ください

まもなく
出願受付開始

平成27年度医学部 推薦入学試験に10名が合格

11月23日(日)午前9時から、枚方学舎において平成27年度推薦入学試験が実施され、小論文・適性検査・面接(集団・個別)の各試験が行われました。第1次選考(書類選考)を通過した受験生58名のうち、10名の合格が11月28日(金)正午に発表されました。

大阪府地域枠の定員が5名増加 平成27年度の入学定員は117名に

10月20日(月)、地域医療を担う医師の確保を目指し、文部科学省が平成27年度の医学部定員増加を承認しました。本学は大阪府地域枠として5名(前期・後期合計)の定員増が認められ、平成27年度の入学定員は117名に増加。また、一定の条件(医師免許取得後一定期間大阪府内の病院勤務、周産期医療・救急医療を行う病院への勤務、周産期医療・救急医療・地域医療に関するカリキュラムの履修)をクリアした学生は、大阪府地域医療確保修学金制度に基づく奨学金の返済が免除されます。

未来のノーベル賞受賞者を育てたい 研究医養成コース

12月1日(月)から、高い研究マインドを備えた研究医を育成するための「研究医養成コース」の申請を募りました。研究医養成コースとは、将来基礎医学研究に携わりたい学生を募り、特別なカリキュラムを履修するもの。対象学生は、本学と奈良県立医科大学・大阪医科大学・兵庫医科大学の提携4大学が合同で行う「研究医養成コースコンソーシアム合宿」に参加できたり、一定の条件をクリアすることで返済が免除される特別な奨学金を受けられたりと、様々な面で研究医となるためのサポートを受けられます。平成26年度の募集は終了しましたが、本学では将来のノーベル賞受賞者や優れた基礎医学研究者を育てるべく、今後も本コースの充実を図ります。

【研究医養成コース募集要項(平成26年度)】

【募集人員】

・4名

【申請資格】

・第2学年で「研究マインド育成プログラム」の参加者

・本学学生奨学金「研究医養成コース」の貸与申請者
【選抜方法】

・第一次審査：申請書類、公開講演会などを総合的に判定して実施

・第二次審査：全学教授会による審査

大学院入学試験 前期入学試験・論文博士語学試験実施

9月6日(土)午前9時30分から、枚方学舎において平成27年度前期大学院博士課程入学試験と論文博士語学試験を実施。この日行われた外国語試験と専攻別授業科目試験の結果により、10月15日(水)に合格者を発表しました。大学院博士課程入試では18名(臨床系社会人学生1名、社会人特別学生1名、外国人特別学生3名、がんプロフェッショナル特別学生4名を含む)が受験し17名が、論文博士語学試験では3名が受験し3名が、それぞれ合格しました。

【後期大学院博士課程入学試験】

【募集定員】

・医科学専攻(代謝機能制御系、高次機能制御系、生体応答系、社会環境医療系)計30名(前期・後期の合計)

・先端医療学専攻(修復医療応用系、ブレインメディカルサイエンス系)計20名(前期・後期の合計)

【願書受付期間】

・平成27年1月5日(月)～1月29日(木)

※郵送する場合は、受付期間内に必着

【選抜方法】

・外国語(英語)筆記試験(午前9時30分～正午)

・専攻別授業科目試験(午後)

【実施期日】

・平成27年2月7日(土)

【試験会場】

・外国語(英語)筆記試験：枚方学舎1階「試験・実習室」

・専攻別授業科目試験：当日通知

【合格発表日】

・平成27年2月19日(木)

※詳細は募集要項、またはホームページをご参照ください

キャンパスライフ



枚方の地で ともに喜び ともに楽しむ 「霜月祭2014」開催

11月1日(土)2日(日)の2日間に亘り、枚方学舎において二度目となる「霜月祭2014」が開催されました。学舎移転後、勉学に励む中で枚方という土地に対する絆を感じ、地域の人々とともに喜び、楽しみたいと考えた学生が、今年のテーマに『DELIGHT!!』を設定。当日はあいにくの空模様にもかかわらず、その言葉どおり近隣の学生や高校生、地域の方々が多数来場し、お祭を楽しんでいる姿が見られました。



軽音楽部のライブをBGMに、模擬店の料理を楽しむ来場者の姿

メイン会場となった中庭では、各クラブがたこ焼き、焼きそば、焼き鳥といった学園祭の王道メニューから、チュロス、ワッフル、チゲ鍋、煎餅などの一風変わったメニューまで、幅広い飲食店を出店。教職員はじめ来場者は、ステージで繰り広げられる軽音楽部やフォークソング部、お笑い芸人のライブショーを見ながら“屋台の味”に舌鼓を打っていました。



和服姿に身を固め、凛とした仕草でお茶を点てる茶道部のメンバー

1階オープンラウンジでは茶道部のお茶会と、医学博を開催。健康診断ブースには人だかりができていました。また、医学博は2階学生セミナー室2Aにおいて災害医療や正しいダイエット法などを楽しみながら学べるワークショップや、2階第4講義室において本学卒業生の神戸赤十字病院村上典子心療内科部長を講師に招いた講演会『災害時の心のケア』を行いました。



重低音が奏でる軽快なリズムに合わせて、ダンスを披露した学生

その他にも2階学生セミナー室2B・Cでは写真部が作品展示を、2階会議室2A・Bでは核戦争防止国際医師会議がヒロシマ・ナガサキ原爆写真展をそれぞれ開催。加多乃講堂ではコールクライスやダンスサークルのライブが行われたり、2日目となる2日(日)には大喜利大会やビンゴ大会が行われたりと、霜月祭2014は大きな盛り上がりを見せていました。

霜月祭2014 フォトギャラリー



病 院

第11回医療安全大会 附属3病院において開催

12月15日(月)午後5時30分から医療安全管理センター主催の「第11回医療安全大会」が、大学情報センターの協力により附属枚方病院(13階講堂、合同カンファレンスルーム)、附属滝井病院(南館2階臨床講堂)、香里病院(8階第1・2会議室)の附属3病院4会場を中継して開催されました。この日は大学及び天満橋総合クリニックと附属看護専門学校からの参加者も含めて、教職員計585名が参加。冒頭、神崎秀陽医療安全管理センター長挨拶の後、山下敏夫理事長・学長が「平成26年6月に成立した改正医療法で医療事故調査制度が導入されるため、医療安全の重要性は増している。各自がしっかりと取り組んで欲しい」と挨拶しました。その後、各会場で演者が順次講演を行い、参加者は熱心に耳を傾けていました。



宮良部長の講演に聴き入る満席の参加者

【附属枚方病院】

附属枚方病院では澤田敏病院長から「『好事魔多し』とは良いことには邪魔が入ること、即ち医療の安心と安全を損なわないように注意するには良い機会」との開会の挨拶がありました。

その後は枚方病院医療安全管理部岡崎和一部長が座長を務め、枚方病院感染制御部宮良高維部長が「附属枚方病院における薬剤耐性菌検出状況の推移」、枚方病院呼吸器外科齊藤幸人科長が「肺血栓塞栓症の予防管理—枚方病院開院以来の取り組み—」と題してそれぞれ講演しました。他部署も含めた参加者291名は、今後の医療安全対策に向け熱心に聴き入っていました。



発表を行う石田薬剤師と、熱心に耳を傾ける聴衆

【附属滝井病院】

附属滝井病院では滝井病院医療安全管理部岩瀬正顕部長が座長を務め、滝井病院薬剤部石田篤志薬剤師が「医薬品副作用被害救済制度普及への取り組み」を、滝井病院感染制御部西川光重部長が「血液培養における現状と課題」を、それぞれ講演しました。会場の南館2階臨床講堂は詰めかけた213名の教職員で立ち見が出るほどの盛況ぶりを見せ、大会最後には岩坂壽二病院長が挨拶に立ち、「医療安全の推進はスタッフ全員の協力が不可欠。これからも全員で取り組んで欲しい」と述べました。



発表を行う金光科長

【香里病院】

香里病院では香里病院医療安全管理部廣原淳子部長が座長を務め、香里病院薬剤部金光盟子科長が「注射薬 安全使用への取り組み」と題して、注射ラベル・処方箋控えへの“注意事項”記載の取り組みが発表されました。金光科長は実際のラベル記載例や取り組みに関するアンケート結果を解説。質疑では数値の記載方法を工夫すべきではないかとの意見が出たほか、記載したことによって何か変化は出たかとの問いに対し、以前よりも注意点に関心がもたれるようになったと回答しました。81名が詰めかけた8階会議室で、参加者は発表に聴き入っていました。

附属滝井病院と附属枚方病院の病院情報システムを移行・更新しました

昨年11月3日(月・祝)午前8時に附属滝井病院の、今年1月4日(日)午前8時に附属枚方病院の、病院情報システムがそれぞれ移行・更新されました。今回のプロジェクトは医療情報部が中心となり、部門ごとのリハーサルをはじめ、数百種類に及ぶパターンを用いた教職員延べ約1,500名が参加する大掛かりな総合リハーサルを、滝井病院と枚方病院で計5回実施。綿密な打合せと検討作業、関係各部門との調整に東奔西走しました。その甲斐あってか、新システム稼働当日は大きなトラブルもなく順調にスタート。関係者一同はほっと胸をなでおろしました。

滝井・枚方両病院は今後、データベースが一元化され、診療情報を医療チーム全員が共有・活用できる新システムを武器に、チーム医療の発展を推進していきます。

病 院

備えあれば憂いなし

附属枚方病院で第8回災害訓練を実施



本番さながらの雰囲気、訓練が実施されました



10月18日(土)午前8時30分から、附属枚方病院において教職員約180名をはじめ枚方寝屋川消防組合から車両14台、約85名の消防・救急隊員が参加して第8回災害訓練が実施されました。当日は午前8時50分に南海トラフ沖で発生した大規模地震により枚方市で震度5強の揺れを観測し、近隣住民に多数の負傷者が出た想定で訓練を開始。メディカルコントローラーが広域災害発生をEMIS(広域災害救急医療情報システム)にて確認した後、災害対策本部が立ち上げられました。

駐車場に設けられた消防指揮本部では矢継ぎ早に指令が出され、消防・救急隊員は真剣な表情で発災場所に設定されたクラブハウスの内外から模擬傷病者を救出しました。その後消防・救急隊は、現場での一次トリアージを経て応急処置を行い、救急車による枚方病院への搬送をスタート。トリアージポストでの二次トリアージが行われた後、重症度に応じて傷病者は緑・黄・赤・黒の各ゾーンに運び込まれ、ゾーンごとに傷病者の受け入れ訓練が進行しました。災害対策本部では、院内被災情報や患者情報の収集、集計などが行われました。また、午前11時20分頃からドクターヘリによる附属滝井病院からの重傷病者搬送・受け入れを実施。枚方病院に隣接する枚方防災ヘリポートに医師と看護師、模擬傷病者役の研修医を乗せたドクターヘリが着陸しました。

訓練終了後、各ゾーンごとの反省会を終えた参加者は枚方病院13階講堂へ移動。救急医学講座欽方安行教授による全体講評、各ゾーンのリーダー医師および評価担当者のコメントを共有しました。最後に澤田敏病院長が「大規模災害への対応は、総合訓練、個別訓練、机上訓練の積み重ね。今日は本番に即した真に迫る良い訓練だったが、これからも継続して取り組んで欲しい」と挨拶し、災害訓練は幕を閉じました。

なお、この日は模擬傷病者役として附属看護専門学校1学年の学生が参加。火傷や骨折などの特殊メイクを施し、発災後はあらかじめ決められたストーリーに従って容態が急変するなど、迫真の演技で訓練をサポートしていました。

院内被災も想定した訓練を実施 附属滝井病院第9回災害訓練



ドクターヘリへ患者を収容



10月18日(土)午前9時から附属滝井病院及び淀川河川公園太子橋地区臨時ヘリポートにおいて、滝井病院教職員をはじめ、守口市などの行政担当者、守口市門真市消防組合ほかの消防・救急隊員の参加を得て第9回災害訓練が実施されました。近い将来発生が予想される南海トラフ沖地震において震度6強の揺れがあり、隣接する友親会館が倒壊し多数の傷病者が搬送されるとともに、当院自体が被災し、重傷病者を附属枚方病院へ搬送するという想定で行われました。

地震が発生し、事前に特殊メイクを施した模擬傷病者役の附属看護専門学校の学生が救急隊によって救助され、友親会館横の1次トリアージポストへ運ばれます。現場では派遣依頼を受けた想定のもと、大阪府立急性期・総合医療センターDMATと救急隊が協力し、現場トリアージを行い、徒歩もしくは救急車で滝井病院へと搬送されました。北館玄関前に設置されたトリアージポストでは、搬送されてきた患者ごとに再度トリアージが行われ、赤、黄、緑、黒の各ゾーンに患者を再搬送し、それぞれ手当にあたりました。

訓練開始25分後、当院での治療が不可となった重傷病者を枚方病院へ搬送するため、模擬傷病者役を乗せた救急車が淀川河川公園太子橋地区にある臨時ヘリポートに向かいました。現地到着と同時に大阪大学医学部附属病院からドクターヘリが飛来し、大阪大学高度救命救急センターDMATによって速やかに患者をヘリに収容し、枚方病院へ飛び立ちました。

すべての訓練が終了し、南館2階臨床講堂では反省会を実施、その中で各ゾーンからはすばやく対処できたなどの声がある一方、必要物品や連絡体制の不備に指摘があったほか、消防隊からは災害発生時には救助要請に応えることが困難なため、自分たちで救助するとの想定も考えておいてほしいとの意見もありました。最後に岩坂壽二病院長から「災害はいつ起こってもおかしくないので、常に備えてほしい」との挨拶がありました。

救命のカギは、“時は脳なり”!? 第1回脳卒中救命フォーラムを開催



参加者の質問に答える、武田純一助教

11月27日(木)午後6時から、枚方学舎2階第4講義室において「第1回脳卒中救命フォーラム」が開催され、交野市消防本部をはじめ枚方寝屋川、守口市門真市、大東四條畷など各消防組合の救急隊員と、本学教職員合わせて100名超が受講しました。今回は、“Time is brain (時間は脳そのもの)”と呼ばれるほど早期発見・早期治療が、予後のQOL(生活の質)確保のカギを握る『脳卒中』をテーマに設定。脳神経外科学講座浅井昭雄教授による開会の挨拶後、神経内科学講座金子鋭准教授が座長・脳神経外科学講座武田純一助教がスピーカーを務め、「出血性脳卒中に対する外科的治療」について講演しました。

その後、脳神経外科学講座吉村晋一准教授が座長・神経内科学講座國枝武伸助教がスピーカーとなり、「超急性期脳梗塞に対する脳血管

内治療の現状」について講演。質疑応答では一刻を争う救急隊員らしく「要救助者の症状から脳卒中を疑うケース」について質問が飛び、最後は救急医学講座鎌方安行教授の挨拶で幕を閉じました。

物言わぬ臓器・肝臓の声に耳を傾ける 第3回市民公開講座開催



満場の参加者を前に、開会の挨拶を述べる澤田病院長

12月20日(土)午後2時から、附属枚方病院13階講堂において「肝臓の病気 ～細心の治療や食事療法を知ろう～」と題する市民公開講座が開催されました。枚方病院消化器外科海堀晶樹准教授の司会、枚方病院澤田敏病院長の挨拶で幕を切ったこの日の公開講座は、“沈黙の臓器”といわれる肝臓にスポットを当て、肝臓病の特徴や症状・治療法を広く知ってもらうためのイベント。

まず、枚方病院消化器肝臓内科池田広記講師が「B型・C型慢性肝炎 ～ここまで治る最新治療～」をテーマに講演し、肝炎の発症から検査を経て診断に至る流れ、さらには投薬治療の現状について解説しました。次に登壇した枚方病院消化器外科松井康輔診療講師は、「肝臓がん ～外科的治療の実際～」をテーマに講演。実際の手術動画を交えながら、枚方病院の診療実績から術後のリハビリテーション療法まで、紹介しました。また、枚方病院栄養管理部吉内佐和子管理栄養士は「肝臓病の食事 ～慢性肝炎・肝臓がん術後の食事療法～」について講演。肝臓に優しい食生活や食材について、料理の写真とともに解説しました。

最後は枚方病院権雅憲副病院長の挨拶で締めくくり、満席の参加者は満足そうな表情で会場を後にしていました。

患者やドナーが笑顔で意見交換 腎移植患者会を初めて開催



和やかなムードで意見交換を行う患者ら

11月15日(土)午後2時から、枚方学舎4階中会議室において腎泌尿器外科学講座主催の腎移植患者会が行われました。この会は、腎臓移植を受けた患者やドナーに腎移植の知識をさらに深めてもらうため、初めて開催。総勢36名が参加しました。

第一部では附属枚方病院腎泌尿器外科矢西正明助教が、腎移植の予後や内科合併症のリスクをテーマに講演。他にも枚方病院腎臓内科塚口裕康講師や、レシピエント移植コーディネーター、運動療法士ら6人が食事や運動療法について講演しました。また、第二部では患者やドナーがグループに分かれ、「私が食事ですべて気をつけている事」などをテーマに意見交換会を実施。終始和やかなムードで行われ、最後にインストラクター役の医師・看護師が各グループの意見を発表しました。

3年前に枚方病院で腎移植を受け、同会に参加した患者は「いろいろな意見が聞けて参考になった。今後移植を受ける患者にも役立つと思う。機会があればまた参加したい」と笑顔で感想を語りました。

病 院

ボランティア活動1,000時間を達成 附属枚方病院で活動の2人が表彰を受ける



表彰を受けた上西房さん(左)と森田彩子さん(右)

10月30日(木)午後1時から、ホテルアウリーナ大阪において全国各地の病院で活動するボランティアと病院職員が一堂に会した「病院ボランティアの集い」が開催。附属枚方病院でボランティア活動を行っている上西房さんと森田彩子さんの2人が、活動1,000時間を達成したことで日本病院ボランティア協会の吉村規男理事長から感謝状が手渡されました。

感謝状を受けた上西さんは「ボランティア仲間と病院関係者の方々に支えられ、6年間活動を続けて達成することができた。受賞を励みに、これからも活動を続けていきたい」と語りました。

また、この日の集いには枚方病院ボランティアグループの和久田富美子代表も参加。他病院との交流会や取り組み発表などが行われ、今後の活動の参考や励みとするいい機会となりました。

日本の医療体系や設備に驚き フィリピンの看護師36人が附属枚方病院見学



配膳車を熱心に見学するフィリピンの看護師

10月27日(月)、フィリピンから来日した看護師36人が附属枚方病院を訪れ、日本の病院施設や看護について学びました。この見学会は日本・フィリピン経済連携協定(EPA)に基づき、フィリピン人看護師が日本の医療施設へ就労するために行われている研修の一部。今回は、6月から大阪市の施設で研修を受けている36人が訪れました。

一行はまず、枚方病院13階合同カンファレンスルームにおいて枚方病院看護部安田照美部長から、病院の概要や看護の取り組みなどについて受講。続いて6グループに分かれ、病棟や高度救命救急センター初療室などを見学しました。病棟では車椅子を利用する患者さんへの介助やシャワー室、配膳車の仕組みなども見学。身を乗り出して説明に聴き入る参加者の姿が見られました。

最後に意見交換会が行われ、参加者は「フィリピンにはない様々な設備や器具があり驚いた。今日の経験を日本で働くために役立てたい」などと流暢な日本語で感想を述べました。

附属枚方病院教育講演会を開催 「病院職員のためのコミュニケーション」



ワークに取り組む受講者と、見守る西垣教授(中央奥)

11月6日(木)午後4時30分から、附属枚方病院13階講堂において教職員を対象とし、「病院職員のためのコミュニケーション：心理学の立場から」をテーマに心理学教室西垣悦代教授が講師を務める教育講演会が開催されました。

講演会では2人一組となって実習に取り組む時間もあり、普段苦手な人と接するときは心のゆとりが失われており、相手を理解する努力が足りていないことを参加者は体感。西垣教授は「人間は多面的な生き物であり、見えていない部分を見ようとしていないだけ」と話しました。さらにアドラー心理学における「ライフスタイル分析」テストを例に挙げ、相手のタイプに応じた接遇が重要であること、人間の感情は出来事ではなく受け止め方で変わることを指摘。その上で、苦手な人への対処法を解説しました。さらに、質疑応答では外来現場における悩みに対して西垣教授が心理学的な分析を加えるなど、参加者は実践的な講義内容に満足そうな表情を浮かべていました。

病 院

附属滝井病院

ご存じですか？ B型肝炎

「第22回 肝臓病教室」開催



中橋診療講師の講演に耳を傾ける受講者

11月15日(土)午前10時30分から、附属滝井病院6階臨床講堂において「第22回 肝臓病教室」が開催され、約40名が受講しました。今回は「B型肝炎」をテーマに、附属滝井病院消化器肝臓内科中橋佳嗣診療講師が「B型肝炎の診断と治療」を、滝井病院看護部中生育代副師長が「慢性肝炎のお話 ～日常生活と感染予防～」を、滝井病院田村佳奈医療ソーシャルワーカーが「肝炎治療のための医療費助成について」を、それぞれ講演。集まった聴衆は、性質、経過など診断が難しいB型肝炎の特徴と治療法、日常生活における注意点、各種助成制度について興味深く耳を傾けていました。また、質疑応答では慢性肝炎の患者さんが経過観察の検査や治療の見通しなどについて質問。中橋診療講師が丁寧に回答していました。

「第5回よくわかる
肝臓病セミナー」を
開催します！

3月14日(土)午後2時から、滝井病院肝臓病センターでは守口文化センターエナジーホールにおいて「第5回よくわかる肝臓病セミナー」を開催予定です。事前申し込み不要で参加費は無料です。詳しくは肝臓病センターホームページ(「関西医大 肝臓病センター」で検索)にてお知らせしています。

附属滝井病院肝臓病センター：06-6992-1001(月曜から金曜、午前11時～午後4時)

日曜マンモグラフィー健診

10月19日(日)午後1時から、附属滝井病院外科外来および放射線部撮影室において3Dマンモグラフィー撮影やエコー検査などの乳がん検診を行う、「日曜マンモグラフィー」が開催されました。これは滝井病院が昨年引き続き、乳腺外科の広報活動を行うことで知名度を高める「J.M.S 2014年賛同医療機関ネットワーク」に参加したことによるものです。

NPO法人J.POSHでは、子育てや仕事などで多忙な平日を過ごしている女性のために、2009年から世界的な乳がん啓発強化月間である“10月の第3日曜日”を『ジャパン・マンモグラフィー・サンデー(JMSプログラム)』に設定。全国どこでもマンモグラフィー検査を受診できる環境づくりを行っており、日本各地の医療機関や自治体の健診担当部門に呼びかけています。

クリスマスの暖かい音色が響く 附属滝井病院クリスマスコンサート開催



演奏に合わせて歌詞カードを見ながら愛燦燦を歌う参加者

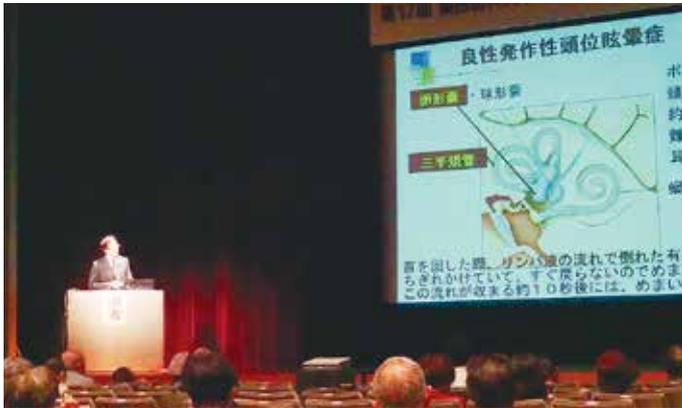
12月20日(土)午後2時から附属滝井病院6階臨床講堂において、クリスマスコンサートが開催され、入院患者や家族など118名が参加しました。

当日は、職員のボランティアスタッフが、サンタのコスチュームや赤い帽子とおそろいのTシャツ姿で参加者をお出迎えました。コンサートが始まると、弦楽四重奏「ナチュラル」の皆さんが、「Let it Go～ありのままで～」や「麦の唄」などのヒットソング、また、「きよしこの夜」をはじめとしたクリスマスソング・メドレーを披露しました。また、アンコール「情熱大陸」では演奏者が客席を回りながら演奏を行い、間近で見る弦楽器の迫力ある生演奏に、参加者は時に口ずさみながら、思い思いに楽しんでいる様子でした。

病 院

「人生をより元気に美しく！！」～三つのエッセンス～

第17回附属滝井病院市民公開講座開催



めまいの原因について語る岩井准教授

11月29日(土)午後2時から守口文化センター・エナジーホールにおいて、第17回関西医科大学附属滝井病院市民公開講座が開催され、市民ら約140人が参加しました。今回は「人生をより元気に美しく！！」をテーマに、附属滝井病院末梢血管外科の駒井宏好診療教授が座長を務め、「めまい・耳鳴り・聞こえの低下 ～あなたの内耳のリニューアル～」と題し、附属滝井病院耳鼻咽喉科の岩井大准教授、「目の老化現象 ～目だってアンチエイジング～」と題し附属滝井病院眼科の三間由美子診療講師、「皮膚の老化 ～光老化を防ぐ紫外線対策について～」と題し、附属滝井病院皮膚科の清原隆宏准教授による3講演を行いました。



参加者からの質問に答える三間診療講師(中央)

講演終了後、事前に参加者から募った質問に基づく質疑応答が行われ、耳鼻科・眼科・皮膚科それぞれの専門分野に関する素朴な疑問について、演者が分かりやすく丁寧に説明していました。

世界糖尿病デーイベント



メンバー全員で記念撮影

11月1日(土)午後2時から午後4時まで、附属滝井病院6階臨床講堂において11月14日の世界糖尿病デーに因んだイベント、『「防ごう！知ろう！糖尿病！」～テレビのウソ・ホント！？食べ方で変わる血糖値～』が開催されました。今回は前回の45名を大幅に上回る89名が参加し、大いに賑わいました。また、当日は運動指導士による実演や管理栄養士などによる講演のほか、血糖値測定から足のチェック、運動実演まで、様々な体験コーナーを設置。中には長い行列が出来るコーナーも見られ、参加者からは「糖尿病について色々を知ることができて、とても勉強になった」「各コーナーでは楽しく体験できた」などの感想が寄せられました。

病 院

香里病院

日曜マンモグラフィー検診を実施



吉田診療講師、兼松助教とスタッフ一同

10月19日(日)午前9時から、香里病院において香里病院乳腺外科吉田秀行診療講師と同兼松清果助教、乳腺外科スタッフが中心となってジャパン・マンモグラフィーサウンダー(JMSプログラム)に基づく乳がん検診が行われました。4回目の開催となった今回は事前に申し込んだ9名が受診し、マンモグラフィー併用検診とマンモグラフィー+エコー併用検診が実施されました。

この日の受診者は全員が“働く女性”。そのためか、受診者アンケートではほぼ全員が応募理由として「日曜日だから」を挙げ、「短時間でマンモグラフィー、エコー、触診、総合結果が分かり安心した」「予約制なので検査がスムーズだった」などと回答していました。今回の健診では、乳がん検診を受けたくても平日は仕事が忙しくて受けられない人が多く、休日に検診を実施することの重要性が改めて浮き彫りに。今後も香里病院として「予防医学」を目的とした「乳がん検診」を行っていく予定です。

「乳がん」からあなたを守るために 香里病院市民公開講座開催



吉田診療講師の講演の様子

10月4日(土)午後2時30分からアルカスホール(寝屋川市立地域交流センター)において、香里病院主催の「乳がんからあなたを守るために」をメインテーマとした市民公開講座が開催されました。10月は乳がんについての正しい知識を広め、早期発見を啓蒙するキャンペーンが世界的に展開されるピンクリボン月間であり、当日は乳がん治療に関心を持つ市民を中心に116名が参加しました。

今回は、市民公開講座委員会委員長の香里病院眼科坪本慎講師が座長を務め、乳腺外科の教職員から乳がんに関連した2題の講演が行われました。まず、香里病院乳腺外科吉田秀行診療講師が「乳がんの検診、診断から最新の治療まで」と題し、女性のがんとして罹患率が最も高い乳がんの診断や治療について講演。その中で吉田診療講師は治

療に様々な選択肢ができ治療成績は向上しているが、反面医療費が高額となっていることなどの問題点を指摘したほか、早期発見につながる検診の重要性、それに関連して10月19日に検診が行われることを紹介しました。

続いて香里病院看護部西岡良子がん化学療法認定看護師が「乳がん治療のケアについて」と題し、乳がん治療の流れや術前術後のケア、自己検診の方法について講演しました。その中で西岡看護師は手術した方の腕が腫れるリンパ浮腫について、普段の生活から気を付けるべき点や自分でできるマッサージ法などを紹介し、イラストを使って自己検診の方法を紹介しました。

それぞれの講演後に質疑応答が行われ、検診結果に関する疑問や術後リンパマッサージについて質問があり、両演者が丁寧に答えていました。

秋の消防訓練を実施



真剣な表情で訓練に取り組む看護師

10月28日(火)午後3時から、香里病院において夜間の火災を想定した消防訓練が実施されました。今回の訓練は6F病棟のパントリー付近から出火したと想定し、まず当直看護師が火災を発見、通報。続いて初期消火を行い、その後消防指揮班長の指示のもと看護師が、消火や模擬入院患者の避難誘導にあたりました。夜間帯の出火を想定していたため、職員約20名という最小限の人数で訓練を進行。これまでの消防訓練に比べて少ない人数で様々な作業をこなさなければならぬだけに、参加者はいつも以上に真剣な眼差しで訓練に取り組んでいました。訓練終了後には、1階ロータリーにおいて訓練用の水消火器による消火体験が実施されました。

附属看護専門学校

32期生が、半年ぶりに里帰り ホームカミング・デイを初開催



懐かしの校舎を背景に、懐かしの級友・教員と記念撮影

10月4日(土)午前10時から、牧野キャンパスにおいて附属看護専門学校を今春卒業し、看護師としての第一歩を踏み出した32期生35名と元担任、及び教職員10名が出席して初めてのホームカミング・デイが開催されました。冒頭から懐かしい顔ぶれとの再会に話が弾み中、この日は28・30期の先輩2名も参加。自身の新米看護師時代を振り返って経験談を語り、32期生からの質問にも、具体的なアドバイスがなされていました。

その後軽食を取りながらのフリートークが始まり、教員も混じって昔話に花が咲きました。参加者の一人は「仕事は厳しい部分もあるが、この学校で学んだことが大いに役立っている。今日は友だちや先生に再会できて良い気分転換になりました」と笑顔で語っていました。

枚方を、心安らぐまちに― 附属看護専門学校生徒が防犯イベントに協力



壇上で『安全宣言』を読み上げる、看護専門学校生

10月16日(木)午後5時から、くずはモール本館ミドリノモール1階グランドアトリウムにおいて枚方警察署はじめ枚方市防犯協議会他参加機関と、ボランティア協力のもと「安全なまちづくり推進キャンペーン」が開催され、附属看護専門学校1学年の6名が参加しました。この日はタレントの武田訓佳さんが一日警察署長を委嘱され、大阪府警察府民安全課指導班が振り込め詐欺被害防止の防犯教室などを上演。看護学校学生が『安全宣言』を読み上げた後、くずはモール内をパレードしました。最後は樟葉駅前広場に移動して、参加者全員でチラシや防犯啓発グッズ等を配布しました。賑やかなイベント風景に居合わせた買い物客や通勤・通学の人々は次々と足を止め、配布された防犯チラシに目を通していました。

心まで明るく照らすキャンドルの灯り 第29回キャンドルサービスを開催



灯されたろうそくを手に、1Fセンターアトリウムで整列する看護学校生徒

12月18日(木)午後3時30分から、附属枚方病院各所において附属看護専門学校1～3学年生徒による第29回キャンドルサービスが催され、病院内は幻想的な雰囲気になりました。この日はグループに分かれた看護学生がろうそくを手に各病棟を訪れ、「赤鼻のトナカイ」や「きよしこの夜」を斉唱しながら病室を訪問。入院患者一人ひとりに手作りのクリスマスカードを手渡していきました。その後枚方病院1Fセンターアトリウム北側に集合し、全員でクリスマスソングを合唱。看護専門学校岡崎和一学校長が「ろうそくは我が身を削って周囲を明るくする、自己犠牲精神の象徴。皆さんも看護師として活躍できるよう学業に邁進して欲しい」と挨拶しました。入院患者や見舞客は、ろうそくの灯りと看護学生の歌声に癒やされている様子でした。

34名が合格 推薦入試結果

11月15日(土)午前9時から、附属看護専門学校において平成27年度推薦入学試験が実施され、39名が受験しました。また、11月21日(金)午前9時から看護学校校舎において合格発表が行われ、34名が合格。合わせてホームページにおいて合格者の受験番号が公開されました。

卒後臨床研修センター

平成26年度臨床研修指導医 養成講習会を開催

10月10日(金)・11日(土)の2日間にわたり、ホテルコスモスクエア国際交流センターにおいて平成26年度臨床研修指導医養成講習会が開催され、臨床研修指導医を目指す学内外の医師37名が参加しました。この講習会は厚生労働省の指針に基づく講習会受講・修了証書の獲得を目的としたもので、臨床研修指導医となるための必須条件となっているものです。

今回は金子一成卒後臨床研修センター長をディレクターに、学外から聖路加国際病院福井次矢院長、一般社団法人高知医療再生機構倉本秋理事長をタスクフォースに招聘。チーフタスクフォースの医療安全管理センター宮崎浩彰准教授以下、各タスクフォースの指導のもとワークショップ形式での全体討議やグループワーク、ミニレクチャーが行われました。

受講者は臨床研修医に対する教育指導の目標や評価法を理解し、基本的な臨床能力を備えた研修医育成力の修得に向けて熱心に受講。講習修了後、厚生労働省認定の修了証書が友田幸一副学長から授与されました。

潜在看護師復職支援 看護技術トレーニング開催



現役看護師から、痰の吸引について講習を受ける受講者

10月29日(水)午前9時から、枚方学舎3階シミュレーションセンターにおいて結婚や出産などの事情で離職している看護師を対象とした復職支援・看護技術トレーニングが、附属枚方病院・香里病院看護部の協力を得て実施されました。この日は、枚方市や四條畷市、交野市、大阪市に在住する未就業の看護師6名が参加。2人1組の3グループに分かれて痰の吸引や心電図の計測、血圧測定、聴診器を用いた呼吸音の聴診など、実践的な看護スキルの講習を熱心に受けていました。また、少人数での開催ということもあって受講者同士が再就業に向けた日頃の思いを語りあったり、現役看護師に病院勤務の実情を質問したりと、充実した講習会となりました。

初期臨床研修医マッチング状況について

10月23日(木)に医師臨床研修マッチング協議会から発表されたマッチング結果は、50名(枚方病院39名、小児科重点プログラム1名、産婦人科重点プログラム2名、滝井病院8名)となりました。小児科重点プログラムで1名の空きが出ましたが追加募集を行い、11月1日(土)に面接試験を実施。採用を決定しました。また、学内の卒業合否判定の結果、附属滝井病院プログラムに2名の空きが出ましたが、12月15日(月)に面接試験を実施。他大学出身の2名を採用し、定員51名に対してフルマッチを達成しています。

附属3病院合同看護職教育担当者研修会



シミュレータを前に、演習に取り組む受講者

11月29日(土)・12月6日(土)の2日間に亘り附属枚方病院13階講堂において、卒後臨床研修センター看護実践支援部門主催の附属3病院合同看護職教育担当者研修会が開催されました。1日目は、講師に関西国際大学保健医療学部看護学科青木菜穂子准教授を招き、「聴き上手、話し方上手、引き出し方上手になろう」をテーマに40名が参加。スタッフの成長を促すコミュニケーションスキルについて学びました。

2日目は、講師に兵庫県立大学看護学部看護学科小西美和子教授を招き、「学習者の特徴をふまえた教育方法」をテーマにシミュレーション教育に関する研修会を開催。シミュレータを用いた演習を行い、デブリーフィングの手法など臨床実践能力向上のために効果的な教育方法を学習。受講者は研修での学びを活かし、4月から新人看護職員の教育担当者として職務に励む予定です。

関西医科大学同窓会 アートガイド

関西医科大学同窓会理事・一般財団法人加多乃会理事 廣原 淳子

ご存知のように滝井の地、加多乃会館にありました関西医科大学同窓会・加多乃会は、平成25年春に枚方学舎13階に移転しました。名誉教授をはじめとして同窓生の先生方から愛蔵されていた美術工芸品の数々を同窓会にご寄贈いただいておりますが、移転を機により多くの方々にご覧いただきたく平成26年6月に整備し展示いたしました。今回「アートガイド」として一覧を作成しましたので紹介させていただきます。同窓会フロアには大小の会議室があり研究会や会合など、同窓生のみならず学内関係者のご利用が可能です(一部有料)。是非一度足をお運びいただき、先輩諸兄姉の母校への尊い想いを感じていただければと思います。

なお、これらの他にも附属枚方病院・附属滝井病院および大学法人管理部門・枚方学舎・牧野の附属看護専門学校内には同窓生の先生方からご寄贈いただきました品々が多数あり、病院を訪れる方々そして学ぶ若人たちの心を癒して下さっています。将来大学では全作品を紹介できるような企画も進行中であるとも伺っております。このたび私自身も大会議室を飾る「飛天」と教養部の頃から眺めていた牧野の大講堂天井壁画の由来を調べ、恩師や諸先輩方の篤い気持ちに歴史的価値の高い明治の壁画を平成の世に蘇がえらせたことを知る良い機会となりました。しかし壁画の大部分は未だ牧野で静かに眠っています。いつかこれらが一同に会して、数々の寄贈品とともに関西医科大学キャンパス内で素敵なアートウォークのできる日が訪れる事を願っております。

(関西医科大学内科学第三講座・関西医科大学香里病院内科)



「野菜と果物」1929年生まれのイタリア現代写実画家ジョルジョ・スカルコの作品。静謐な筆致による作品で知られ、愛好家も多い(水野孝子氏(29回生)贈)。



「飛天(天人)」1819年生まれ、幕末明治期に活躍した円山派の日本画家・上田耕沖の作品。牧野大講堂天井壁画「双龍鳳凰」を含む23点が大阪府から譲渡された後、岡宗夫・森井外吉名誉教授、同窓生有志らの厚志によって修復された。本作品は、その内の1つである。



中会議室には、香道に使われる道具・聞香道具(川那部喜美子氏(1回生)贈)や、現代ソビエト画壇の巨匠・ロマジンH.M.の油絵(藤森民子氏(13回生)贈)、陶磁器の名品(岡村邦子氏(20回生)贈)などが展示されている。



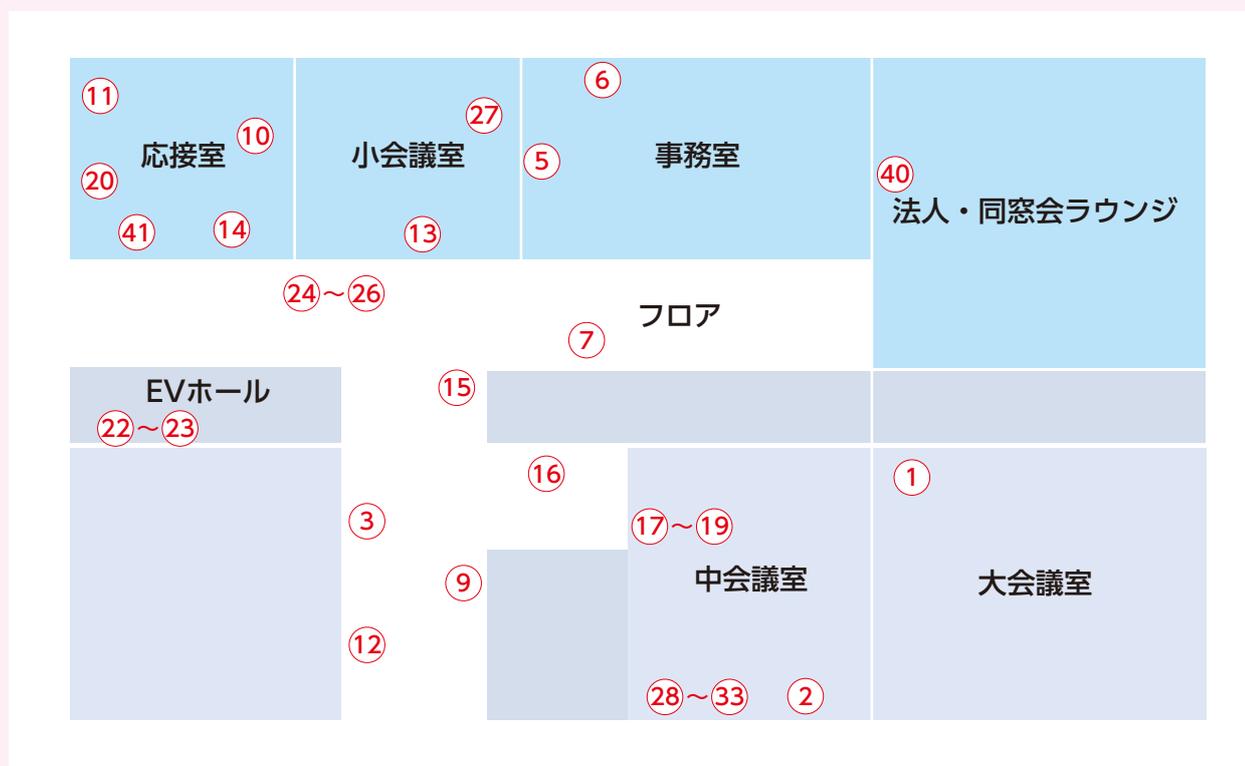
応接室には、熊谷守一の版画「椿」(大原一枝名誉教授(4回生)贈)や、「薔薇」(鮫島美子名誉教授(13回生)贈)などが展示されている。



本学の前身・大阪女子高等医学専門学校の記念すべき1回生にして最初の主席卒業生、蔡聯歡先生が寄贈された講義ノートも展示している。

同窓会

枚方学舎13階 同窓会フロア



<収蔵品リスト>

- ・ 01: 「飛天(天人)」上田耕冲作(森井 外吉贈)
- ・ 02: 「聞香道具一式」(川那部 喜美子(1回生)贈)
- ・ 03: 「著作物・学習ノート」(蔡 聯歡(1回生)贈)
- ・ 04: 「対」坂本善三作(大原 一枝(4回生)贈)
- ・ 05: 「古式」坂本善三作(大原 一枝(4回生)贈)
- ・ 06: 「相似」坂本善三作(大原 一枝(4回生)贈)
- ・ 07: 「炎」坂本善三作(大原 一枝(4回生)贈)
- ・ 08: 「門」坂本善三作(大原 一枝(4回生)贈)
- ・ 09: 「書」自筆(大原 一枝(4回生)贈)
- ・ 10: 「椿」熊谷守一作(大原 一枝(4回生)贈)
- ・ 11: 「風景」大澤昌助作(大原 一枝(4回生)贈)
- ・ 12: 「白い花と青い花瓶」自筆(倉 八千代(7回生)贈)
- ・ 13: 「飾壺老松」富本憲吉作(鮫島 美子(13回生)贈)
- ・ 14: 「薔薇」熊谷守一作(鮫島 美子(13回生)贈)
- ・ 15: 「バラ」古家新作(鮫島 美子(13回生)贈)
- ・ 16: 「薔薇」岡田信造作(鮫島 美子(13回生)贈)
- ・ 17: 「小さな橋」ロマジンH.M.作(藤森 民子(13回生)贈)
- ・ 18: 「新月」ロマジンH.M.作(藤森 民子(13回生)贈)
- ・ 19: 「茜色の海 積丹西海岸 ろうそく岩」ロマジンH.M.作
(藤森 民子(13回生)贈)
- ・ 20: 「ユーローパ人形」マイセン窯(藤森 民子(13回生)贈)
- ・ 21: 「京人形」京都 京人形司松屋(藤森 民子(13回生)贈)
- ・ 22: 「陽」宇治山哲平作(18回生クラスー同贈)
- ・ 23: 「歓」宇治山哲平作(18回生クラスー同贈)
- ・ 24: 「湧」宇治山哲平作(18回生クラスー同贈)
- ・ 25: 「わたくし」宇治山哲平作(18回生クラスー同贈)
- ・ 26: 「情」宇治山哲平作(18回生クラスー同贈)
- ・ 27: 「黄・ピンク・青紫の花」直原玉青作(塩崎 安子(19回生)贈)
- ・ 28: 「志野 水指」加藤景秋作(岡村 邦子(20回生)贈)
- ・ 29: 「志野 茶碗 山に松文」加藤景秋作(岡村 邦子(20回生)贈)
- ・ 30: 「志野 茶碗 亀甲文」加藤景秋作(岡村 邦子(20回生)贈)
- ・ 31: 「志野 茶入」加藤景秋作(岡村 邦子(20回生)贈)
- ・ 32: 「志野 蓋置」加藤景秋作(岡村 邦子(20回生)贈)
- ・ 33: 「打刷毛目大皿」島岡達三作(岡村 邦子(20回生)贈)
- ・ 34: 「掛合釉茶碗」濱田庄司作(岡村 邦子(20回生)贈)
- ・ 35: 「青白磁鉢」塚本快示作(岡村 邦子(20回生)贈)
- ・ 36: 「志野 茶碗 松並木」加藤景秋作(岡村 邦子(20回生)贈)
- ・ 37: 「鉄釉飾り皿」佐久間藤太郎作(岡村 邦子(20回生)贈)
- ・ 38: 「志野 角皿」安藤日出武作(岡村 邦子(20回生)贈)
- ・ 39: 「七宝焼」中上良子作(岡村 邦子(20回生)贈)
- ・ 40: 「野菜と果物」ジョルジョ・スカルコ作(水野 孝子(29回生)贈)
- ・ 41: 「椿」熊谷守一作(水野 孝子(29回生)贈)

※作者・寄贈者ともに敬称略

※見学を希望される方は、同窓会事務局までお申出ください。

メディア情報

教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。

(主に平成26年10月1日～12月31日 ※判明分のみ)

外科学講座 吉岡 和彦 理事長特命教授	産経新聞 (10月7日朝刊)	自分で排便をコントロールできなくなる「便失禁」の治療で保険適用された「仙骨神経刺激療法」についてのコメントが掲載されました。
眼科学講座 中内 正志 講師	読売新聞 (10月10日朝刊)	目の愛護デー(10月10日)にちなんで開催される「目のすべて展」(10月12・13日 大阪府眼科医会主催)に関連した誌上座談会が掲載され、「加齢と目の病気」について知っておくべき知識や眼科医療の最新治療などのコメントが紹介されました。
精神神経科学講座 木下 利彦 教授	毎日新聞 (11月7日朝刊)	群馬県富岡市立美術博物館で行われている「アール・ブリュット トミオカ2014」において、「アールブリュットの世界」と題する講演を行うことが紹介されました。
眼科学講座 高橋 寛二 教授	NHK 「ためしてガッテン」 (11月19日)	『1200万人！目の現代病 危険な目ヤニ発見ワザ』で、加齢黄斑変性について解説。その前兆や症状、発症のメカニズムから早期発見のポイント、予防法と最新の治療法までを紹介しました。
健康科学教室 木村 穰 教授 (附属枚方病院健康 科学センター長)	読売テレビ 「かんさい情報ネットten」 (11月28日)	『カラクリ解明』のコーナーで1日の身体活動の70%は日常の生活活動が占めており、そのほとんどが歩くことだと解説。ダイエットの秘訣について、特別なことをしなくても歩行の質と量を高めることが重要であり、近道だとコメントしました。
腎泌尿器外科学講座 井上 貴昭 助教	日本経済新聞 (12月12日夕刊)	脇腹周辺に激しい痛みなどが出る尿路結石の症状・診断方法・治療法についてコメントが掲載され、附属滝井病院結石治療センターでの実際の治療法についても提供した所見画像を交えて紹介されました。
整形外科講座 齋藤 貴徳 准教授	サンデー毎日 (12月14日)	長時間歩行すると手足が痺れたり痛んだりする高齢者に多い疾患・脊柱管狭窄症に関する記事の中で、疾患の原因や特徴的な症状、治療の方法などのコメントが掲載されました。

*このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

編集後記

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は何かとお世話になり誠に有難うございました。本年も本学一同“慈しみ・めぐみ・愛”を心の鏡として精進に励んで参りますので、引き続き変わらぬご愛顧を賜りますよう心からお願い申し上げます。

と、堅苦しいご挨拶はこの辺にしておき、皆さんの2014年はどのような一年だったのでしょうか？個人的には波乱含みの展開が連続する激動の一年でしたが、良い一年だったと思う人にもそうでない人も、等しく2015年がやってきました。今年はどうな一年になるのか、期待と不安が入り混じった年始です。

まあ過去がどうであれ、新しい年は新しい気分で心機一転。もう一度エンジンを巻き直してスタートしていきいたい！！と考えながら、なかなかコタツから出られずに一日を始められない私でした。改めて、関西医科大学広報を今年も宜しくお願ひ申し上げます。(一)

関西医科大学広報は、本学HPでも閲覧できます

この広報誌は創刊号から最新号まで、本学HPでも公開しています。過去の記事を閲覧したい場合は、本学HPトップページから右下のリンク「関西医科大学広報」をクリックしてください。

ご意見・ご感想をお待ちしています

「関西医科大学広報」についてのご意見・ご感想は、下記奥付に記載してある連絡先に郵送いただくか、メールアドレス、電話番号までお願いします。皆様のご意見をお待ちしています。

関西医科大学広報 Vol.28

発行 学校法人 関西医科大学
編集 法人事務局総務部広報課
〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1
TEL 072-804-0101 (代表)
FAX 072-804-2547

<http://www.kmu.ac.jp/>

E-mail : kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

平成27年1月23日(金)発行